

2019年（平成31年） 4月5日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 (一財)日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

3/21~3/27のNYMEX・WTIIは、58.82~59.98ドルの範囲で推移した。

3月28日は、トランプ大統領が、原油価格は高すぎる、OPECは増産すべきとツイートしたことから、続落した。ただ、2018年第4半期の米国実質GDP確報が2.2%増と過度の景気後退感が後退したことが下値を支えた。5月限終値は前日比0.11ドル安の59.30ドル。

週末29日は、米国株価の上昇、前日の堅調な米国GDP値等で投資家がリスクを取り易くなったことで、3日ぶりで反発、節目の60ドルを上回った。ペーカー・ヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数は816基(前週比8基減)と6週連続減少で11ヶ月ぶりの低水準となったことも支援材料だった。5月限終値は前日比0.84ドル高の60.14ドル。

週明け1日は、米中の好調な景況指数の発表やサウジの3月産油量が4年ぶりの低水準に落ち込んだとの報道から続伸した。5月限終値は前週末比1.45ドル高の61.59ドル。

2日は、米高官の対イラン経済制裁の適用除外停止の発言、ポルトン大統領補佐官の対ベネズエラ制裁強化の発言など、供給減少懸念から、3営業日続伸した。OPECの3月産油量が4年ぶりの低水準に落ち込んだとの報道も支援材料となった。5月限終値は前日比0.99ドル高の62.58ドル。

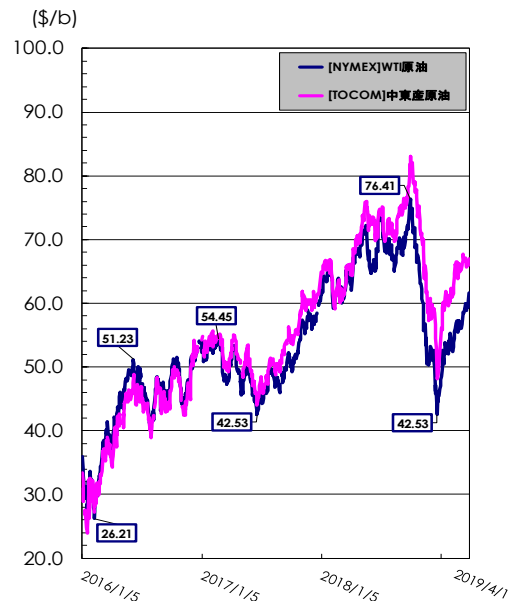
3日は、EIA在庫週報で、米国原油在庫が予想外の急増となり、反落した。ただ、ガソリン・中間留分在庫の予想以上の取り崩し報告、OPECの3月産油量の減少報告などが下値を支えた。5月限終値は前日比0.12ドル安の62.46ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(5月渡し)は3月21日~27日の間66.40~67.60ドルの範囲で推移した。3月28日66.90ドル、29日67.10ドル、4月1日67.10ドル、2日68.60ドル、3日69.40ドルで推移した。

為替は3月21日~27日の間109.91~110.74円の範囲で推移した。3月28日110.36円、29日110.99円、4月1日111.10円、2日111.44円、3日111.52円で推移した。

そのような中で、4月1日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.5円の値上がり、軽油も同0.4円の値上がり、灯油も同2円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリン、軽油、灯油ともに7週連続の値上がりだった。この週(4月第1週)の原油コストはわずかに値下がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社0.5円の引き下げとなった。

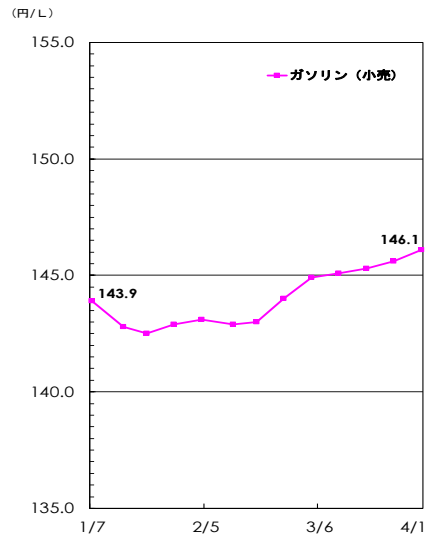
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	3/24 ~ 3/30	3,489 ▼ -21	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	89.1 ▼ -0.5	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	3/30	12,542 ▲ 756	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/ bbl)	4/1	66.98 ▲ 1.37	▲ 0.9
	WTI原油(NYMEX) (\$/ bbl)	4/1	61.59 ▲ 2.77	▼ -1.4
	原油CIF単価 (\$/ bbl)	3月上旬	63.82 ▲ 1.37	▼ -2.97
	①原油CIF単価 (¥/ kl)	"	44,440 ▲ 1,106	▼ -324
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	110.71 ▼ -0.41	▼ -4.15
	外国為替TTSレート (¥/\$)	4/1	112.10 ▼ -1.19	▼ -4.80



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/24 ~ 3/30	1,043 ▲ 65	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	911 ▼ -18	▲ -	
	輸出	"	122 ▲ 62	▲ -	
	在庫	3/30	1,619 ▲ 10	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/26 ~ 4/1	61.3 ▲ 1.0	▲ 1.7	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/26 ~ 4/1	57.8 ▲ 0.2	▼ -1.2
		(TOCOM/中部)	4/1	60.5 ➡ 0.0	▲ 1.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/1	146.1 ▲ 0.5	▲ 3.0	

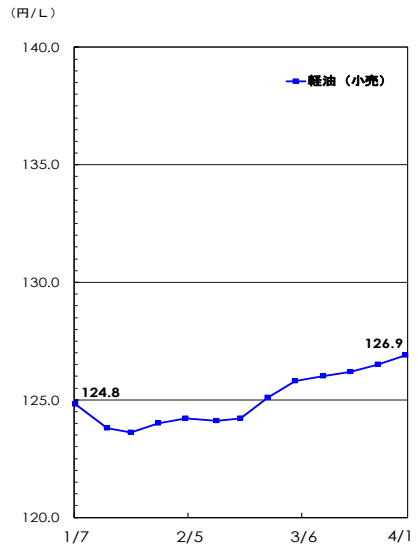
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

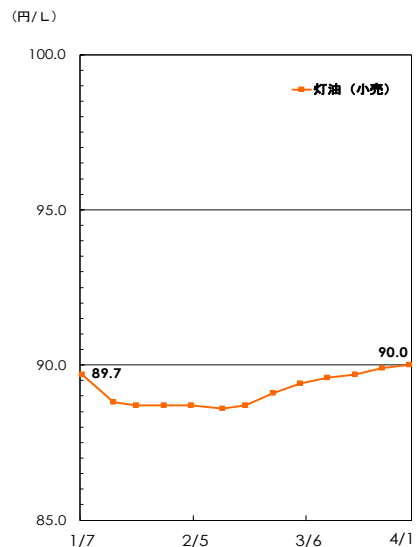
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/24 ~ 3/30	794 ▼ -30	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	666 ▲ 137	▲ -	
	輸出	"	382 ▲ 166	▲ -	
	在庫	3/30	1,334 ▼ -254	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/26 ~ 4/1	64.9 ▲ 0.6	▲ 4.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/26 ~ 4/1	64.9 ▲ 0.2	▲ 3.7
		(TOCOM/中部)	4/1	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/1	126.9 ▲ 0.4	▲ 5.1	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	3/24 ~ 3/30	338 ▲ 46	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	338 ▼ -63	▲ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	▼ -	
	在庫	3/30	1,331 ➡ 0	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	3/26 ~ 4/1	64.2 ▲ 0.7	▲ 1.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	3/26 ~ 4/1	62.4 ▼ -0.3	▲ 2.5
		(TOCOM/中部)	4/1	62.5 ➡ 0.0	▲ 4.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	4/1	90.0 ▲ 0.1	▲ 2.3	



■ 関連情報

1 海外/原油

4月3日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油在庫が前週比720万バレル増と市場予想(前週比40万バレル減)に反して大幅に積み増しになったことから、反落した。ただ、ガソリンと中間留分の在庫がそれぞれ180万バレル減、200万バレル減と予想以上に減少したこと、さらに、石油輸出国機構(OPEC)の3月産油量が4年ぶりの低水準だったとの報道、ブライアン・マイラン担当特別代表のイラン原油輸入適用除外8か国中3カ国が既に輸入を停止したとの発言が下値を支えた。5月限終値は前日比0.12ドル安の62.46ドル。6月限の終値は前

日比0.09ドル安の62.52ドルだった。

EIAによると、4月1日時点のガソリンの小売価格は、前週比6.8セント値上がりの1ガロン2.691ドル(79.6円/ℓ)、ディーゼルは同0.2セント値下がりの3.078ドル(91.0円/ℓ)となった。ガソリンは8週連続の値上がり、ディーゼルは2週ぶりの値下がりがだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2019年3月24日～3月30日に休止したトッパー能力は24.4万バレル/日で、前週に対して1.8万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は348.9万klと、前週に比べ2.1万kl減少。前年に対しては17.2万klの減少。トッパー稼働率は89.1%と前週に対して0.5ポイントの減少、前年に対しては4.4ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、灯油、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/6.6%増、ジェット/18.3%減、灯油/15.9%増、軽油/3.6%減、A重油/10.2%減、C重油/18.1%増。今週のC重油の輸入は0.2万kl(前週比2.7万kl減)。軽油の輸出は38.2万kl(前週比16.6万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比では軽油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではA重油、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。ガソリンの出荷は91.1万 kl(対前週2.0%減)と前週比で2週振りで減少となり、13週連続で100万klを下回った。ジェット13.1万kl(対

前週 14.7%減)、灯油 33.8万kl(対前週 15.6%減)、軽油 66.6万kl(対前週25.9%増)、A重油22.8万kl(対前週3.7%減)、C重油17.6万kl(対前週0.0%減)。

(単位:千kl)

	今週 (3/24 ~ 3/30)	前週 (3/17 ~ 3/23)	前週比	
ガソリン	911	929	▼ -18	(-2%)
ジェット燃料	131	153	▼ -22	(-14%)
灯油	338	401	▼ -63	(-16%)
軽油	666	529	▲ 137	(26%)
A重油	228	237	▼ -9	(-4%)
C重油	176	176	▶ 0	(0%)
合計	2,450	2,425	▲ 25	(1%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

3月30日時点の在庫は、ガソリンで積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては軽油、A重油、C重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは1,619万kl、前週差1.0万kl増。前年に対しては2.7万kl少ない。

灯油は133.1万kl、前週差0.0万kl減。前年に対しては17.1万kl少ない。

軽油は133.4万kl、前週差25.4万kl減。前年に対しては8.6万kl多い。

A重油は75.6万kl、前週差2.0万kl減。前年に対しては5.0万kl多い。

C重油は190.4万kl、前週差1.3万kl減。前年に対しては9.1万kl多い。

(単位:千kl)

	今週 (3/30)	前週 (3/23)	前週比	
ガソリン	1,619	1,609	▲ 10	(1%)
ジェット燃料	808	908	▼ -100	(-11%)
灯油	1,331	1,331	▶ 0	(0%)
軽油	1,334	1,588	▼ -254	(-16%)
A重油	756	776	▼ -20	(-3%)
C重油	1,904	1,917	▼ -13	(-1%)
合計	7,752	8,129	▼ -377	(-4.6%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

3月26日から4月1日の原油価格は前週比でわずかに値下がりし、為替レートもわずかに円高で、原油コストは値下がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、3月26日～4月1日の間、ガソリン114～116円台で大きく値上がり、軽油64～65円台で値上がり、灯油63～64円台で値上がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン115～116円台で値上がり、軽油65～66円台で値上がり、灯油63～64円

台で大きく値上がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン111～112円台で大きく値上がり、軽油64～65円台で値上がり、灯油61～62円台でやや値下がり後値上がりして推移した。

次週の元売の卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに全社0.5円の引き下げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

今週の製品スポット市況は、先物灯油・海上軽油のわずかな値下がりを除き、他の油種・他の取引で、前週平均と比べ値上がりした。

4月第2週(4/4～4/10)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(3/26～4/1千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは1.0円の値上がり、灯油は0.7円の値上がり、軽油は0.6円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは1.4円の値上がり、灯油は0.6円の値上がり、軽油は0.3円の値下がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが0.2円の値上がり、灯油は0.3円の値下がり、軽油は0.2円の値上がりだった。

4月第2週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社0.5円の引き下げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

陸上ローリー4地区平均	今週 (3/26 ~ 4/1)	前週 (3/19 ~ 3/25)	前週比
レギュラー	61.3	60.3	▲ 1.0
灯油	64.2	63.5	▲ 0.7
軽油	64.9	64.3	▲ 0.6

(TOCOM) (単位: 円/%)

期近物/終値[平均]	今週 (3/26 ~ 4/1)	前週 (3/19 ~ 3/25)	前週比
レギュラー	57.8	57.6	▲ 0.2
灯油	62.4	62.7	▼ -0.3
軽油	64.9	64.7	▲ 0.2

※上記価格は税抜き価格

参考値 (3/26～4/1実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.0	▲ 0.2	▲ 0.6
灯油	▲ 0.7	▼ -0.3	▲ 0.2
軽油	▲ 0.6	▲ 0.2	▲ 0.4
A重油	▲ 0.5		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

4月1日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.5円高の146.1円、軽油も同0.4円高の126.9円、灯油は18%ベースで同2円高の1,620円(1%ベースでは同0.1円高の90.0円)だった。ガソリン・軽油・灯油ともに7週連続の値上がりだった。都道府県別には、値上がり34都道府県、横ばいが4県、値下がり9県だった。全国最安値は徳島県の137.8円(前週比0.5円安)、次が埼玉県141.6円(同1.2円高)、最高値は長崎県の157.3円(同0.5円安)であった。最も値上がりしたのは3.1円高の神奈川県(143.8円)、横ばいは高知県など4県、最も値下がりしたのは1.1円安の福岡県(145.9円)だった。

先週の原油コストはわずかに値下がりしたが、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社据え置きとなった。

今週は、原油価格はわずかに値下がりし、為替レートもわずかに円高で、原油コストは値下がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社0.5円の引き下げとなった。次週(4月8日)のガソリン・灯油の小売価格は小幅な値下がりが見込まれる。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (4/1)	前週 (3/25)	前週比	直近高値
レギュラー	146.1	145.6	▲ 0.5	08/8/4 185.1
灯油	90.0	89.9	▲ 0.1	08/8/11 132.1
軽油	126.9	126.5	▲ 0.4	08/8/4 167.4

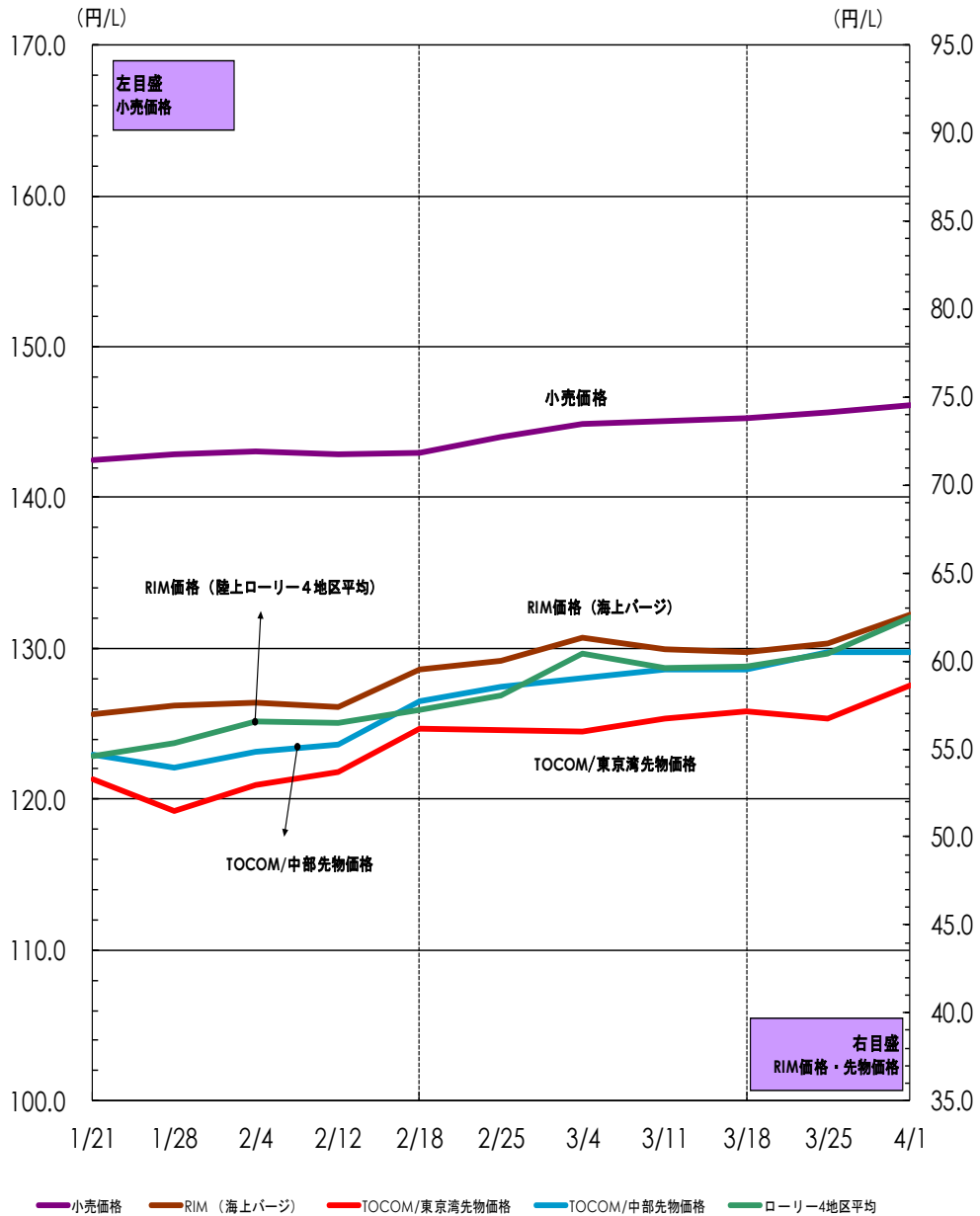
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2019/1/21 ~ 2019/4/1)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2019第2号)の公表は、4/12(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成30年9月末現在)は、12月19日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。